

会議結果（要旨）

会 議 名	第 3 2 回余市町地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和 7 年 6 月 2 0 日 午後 1 時 3 0 分
開催場所	余市町役場 3 0 1 ・ 3 0 2 号会議室
出 席 者	委員：出席 1 8 名 欠席 8 名
会議内容	1. 開 会 2. 報告事項 （1）余市町地域公共交通活性化協議会委員の就任について 資料 1 意見等なし 3. 協議事項 （1）令和 8 補助年度余市町地域公共交通計画の認定申請について 資料 2 意見等なし⇒事務局案承認 （2）余市町デマンド交通の本格運行について 資料 3, 3 - 1 以下の意見あり ※⇒は事務局回答 ・栄町登町方面は試験運行時 12 月から利用があったが、本格運行の際も 12 月から運行できないか。 ⇒栄町登町方面は登録者が 7 名、実際に利用した方は 4 名。特定の利用にとどまったため冬期間でも運行は難しい。地域の方の生活状況等の変化について引き続き注視する。 ・利用しなかった方のアンケート結果で「実証運行を知らなかった」の回答が多いが、栄町登町方面の方であるならば、周知の方法に問題があったのでは。 ⇒アンケートの回答数 27 のうち栄町登町方面の方の回答はごく少数。 ・広報による周知だけでなく、利用の少ない地域には役場から働きかけ、本当に利用しなくてよいのか確認をした方がよいのでは。 ⇒栄町登町方面は利用が非常に少ないことから、本格運行についてこれ以上の検討はしない旨ご理解をいただきたい。つばめ交通の助言により何とか本格運行に至ったが、港町方面も利用が少ないので周知の方法について検討する。 ・対象者の美園・山田方面の線引はどうなっているか。 ⇒本デマンド交通は住所ではなく、区会単位で対象地域を設定している。 ・栄町登町方面は利用者いないとのことだが、困ってる人はいないか？利用が難しかったのか？住民の意見聞く機会あったか？ ⇒R5 年の実証運行を始める際に、交通空白地域の各区会長に伺った。栄町登町方面は現役の農家さんが多く、自力で移動されている方が多いことから利用者

は少ないのではと区会長より伺っていた。実証運行を開始する前に役場から各区会に対面での説明会の開催を提案したが、開催を希望したのは美園山田だけであった。潜在的利用者少ないと考えている。

・運賃 300 円では赤字にならないのか。

⇒赤字にはなる。本格運行の想定運行費は契約の関係もあるので伝えられないが、実証運行ベースで年間 800 数十万円の運行費に対し、運賃 300 円とした際の収入は 50 万円程度。黒字化を目指す運行形態ではない。

⇒事務局案承認

(3) 余市町地域公共交通利便増進実施計画について

資料 4

・目標が設定されているが、余市循環線、デマンド交通の行政負担が多い。行政負担を減らしていかなければならないのでは。

⇒循環線の行政負担は中央バスの運行収支から国補助差し引いたもの。行政負担を小さくするには収入を上げる、運行経費を下げるの 2 つが考えられる。広報周知を含め多くの方に乗っていただくことにより変わる。利用の少ない便は減便や路線の再編等による運行経費の減を考えている。

⇒デマンド交通は、実証運行結果に基づく試算で、4 方面を 1 年間で運行した場合、運行費が約 8,000 千円（国補助なし）。本格運行では栄町登町方面がなくなり、国補助を活用できるので行政負担は減る見通しとなっている。行政負担を減らすには運行費を減らすこととなるが、運行事業者にとってメリットがないものになる。貴重な税金で運行しているので、行政負担に対して利用者が少なければその便について検討しなければいけない。

⇒事務局案承認

4. その他

事務局より今後のスケジュールについて

・本日まで審議いただいたデマンド交通に関して、今後、議会での審議等を経たのち、運輸局へ自家用有償運送の申請をする際に、申請内容を再度協議会にお示しさせていただく。スケジュールの都合から書面開催となる可能性が高いがご理解いただきたい。

・同じく利便増進実施計画についても運輸局に申請する前には再度協議会にお示しさせていただく。明確なスケジュールをお示しできず申し訳ないが、最短でのデマンド交通運行を目指し、運輸局にご助言いただきながら、各種申請スケジュールをシミュレーションしているところであり、ご理解をいただきたい。

5. 閉 会